



起八
原宗
釋迦
實錄
三

特
波13
1809
ノ-3



波門
1809
5-3

八家起原釋迦實錄卷之三

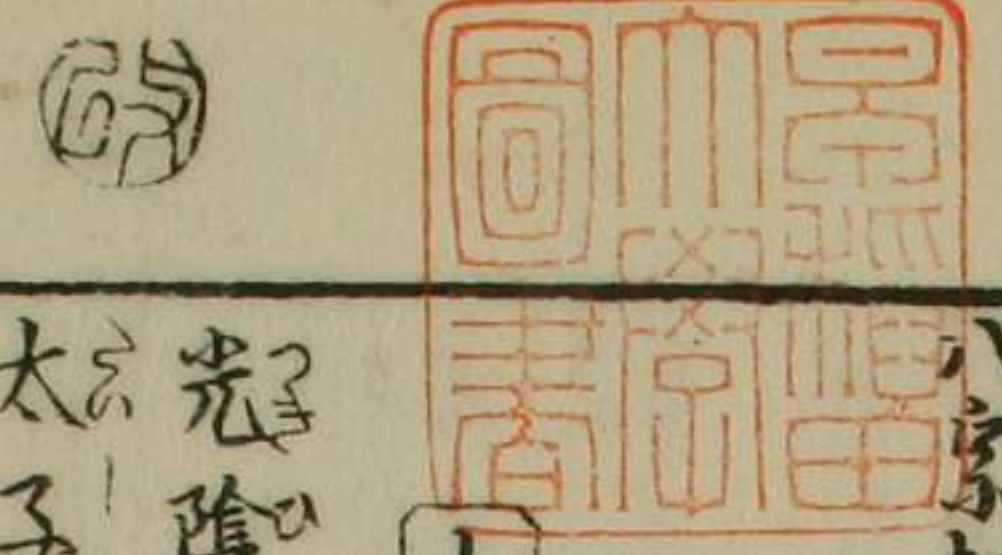
東都

鈴亭谷我譯述

十五

悉多太子三妃を迎納ゆ小并真宗小書を奉る概

光陰ハ百代の過客ありて。過行エとの最速くも星霜後て悉多太子ハ十五歳小成らせぬひ一う六淨版王ハ諸臣を徵て當年二月八日迄太子の儀式を行ふべしと勅しあへど百司百官公得て宣言と諸国へ移行せし。位官伯長の司白版王白道垂翁の司解版王聖道文武の司甘露版王を南諸国の小王我もくくと迦毘羅城小泰着して殿上殿下小羅列し彫て淨版聖王ハ大願小出沛ありて白玉盤小湛しつる。四海水をゆて衣冠正しく坐小着ぬひ一悉多太子の御人頂小謹き



華四卷之三

なひ天地を拜しあひつ今日意多をめて世嗣をも因て天
 地と共不諸国の王乃至五百の狩種群臣不足を告るのあり
 と濟聲よく唱へぬ太子の玉座を起ぬひて天地と父王を
 拜謝しあひ當下雲の如く星の如く願上下不泰列の諸官
 齊一慶賀を述て聘物と捧ぐる小を王のおん歡喜斜あふ
 む列位官爵を加へらえて大宴を開き饗應ぬひ躬て服と
 ぬりし寔不芽出度例あり。遂て后意多太子の春宮ふまぬ
 より諸人の尊敬嚮ふも倍して濟威勢弘くも教多の
 宮女們冊きまのし。系行管絃の遊を尽して晝夜を慰免
 奉まども太子の却て衰しく懶きと不思ひあひ舊古の書
 をのそ友がき不措びあひ其理を究めぬ人と思はぬふりの
 間道を問へば良師の垂きて常不取ひあひつ。深氣

風情ハ更不あ。只苟のおん諸不も後世の管教中の戒をの
 宣ひてを辭ふ在しませば斯て不竟不寢病と知せしめんと
 橋墨跡夫人の津阪王不繚の由を情々地不羨しあふぞ王も
 府慮を惱まぬひ原素速くも出塵の志を起し去りの欲
 友不も不も厭離の心を失はさむと思ふより。橋墨跡鳥
 將軍不も其旨と命トあひて猶容色と百般の技藝不勝
 是し美女を集めて太子の左右不侍りつ。春の花冬の雪
 時折々の詠不随ひ景色絶地の名勝遊賢を供して女色
 歡樂の喫みも出家させたと計ひあつど凡人あくぬ太子不
 在せば数多の美女を見ぬども色情を動ぐぬを遊歡不
 眼ハ慰ぬあつど衣裏の樂しみとぬぬを自然しぬふの春の
 日の長たも倦む冬夜の寒きも厭を不讀書不明し暮し

あひつ、清齡既小二八も就て、十七も成あひつ、六、其至孝
 徳義世不彫是あふ不就ても、若出塵も志あふ、聖王の種と到
 世人の望をまふべしと、群臣競して男、女有と、浄版王不表奉
 して速く太子のあふ后妃を迎へ、あふも自然、愛憐を生、ト
 ぬひ、出家学道とも止、あひて、寶位不而せあふ、ト、衆位
 美聞、一、ふけさ、バ、大王實の思、一、あひて、然、バ、諸国の王不傳
 て、新宮不備べた、才色両全の玉女もあふ、バ、迎納、ト、勅、詔
 わり、百司百官奉りて、わたま、天下最一の美人を、持、奉、ら、ま、
 と、送、不、心、を、尽、一、つ、多、く、都、城、へ、召、寄、ま、さ、し、も、常、不、た、子、不、冊
 ま、つ、了、数、千、人、の、侍、女、們、が、中、へ、難、て、獨、際、ま、つ、た、美、人、は、ま、ご、得
 ざり、一、つ、バ、王、亦、左、右、の、權、志、不、令、ト、
一書、不、使、志、を、不、使、志、と、社、つ、て、人、を、不、使、志、
 一書、不、使、志、を、不、使、志、と、社、つ、て、人、を、不、使、志、
 番、く、諸、国、を、求、め、あ、ふ、不、迦、夷、衛、国、不、一、個、の

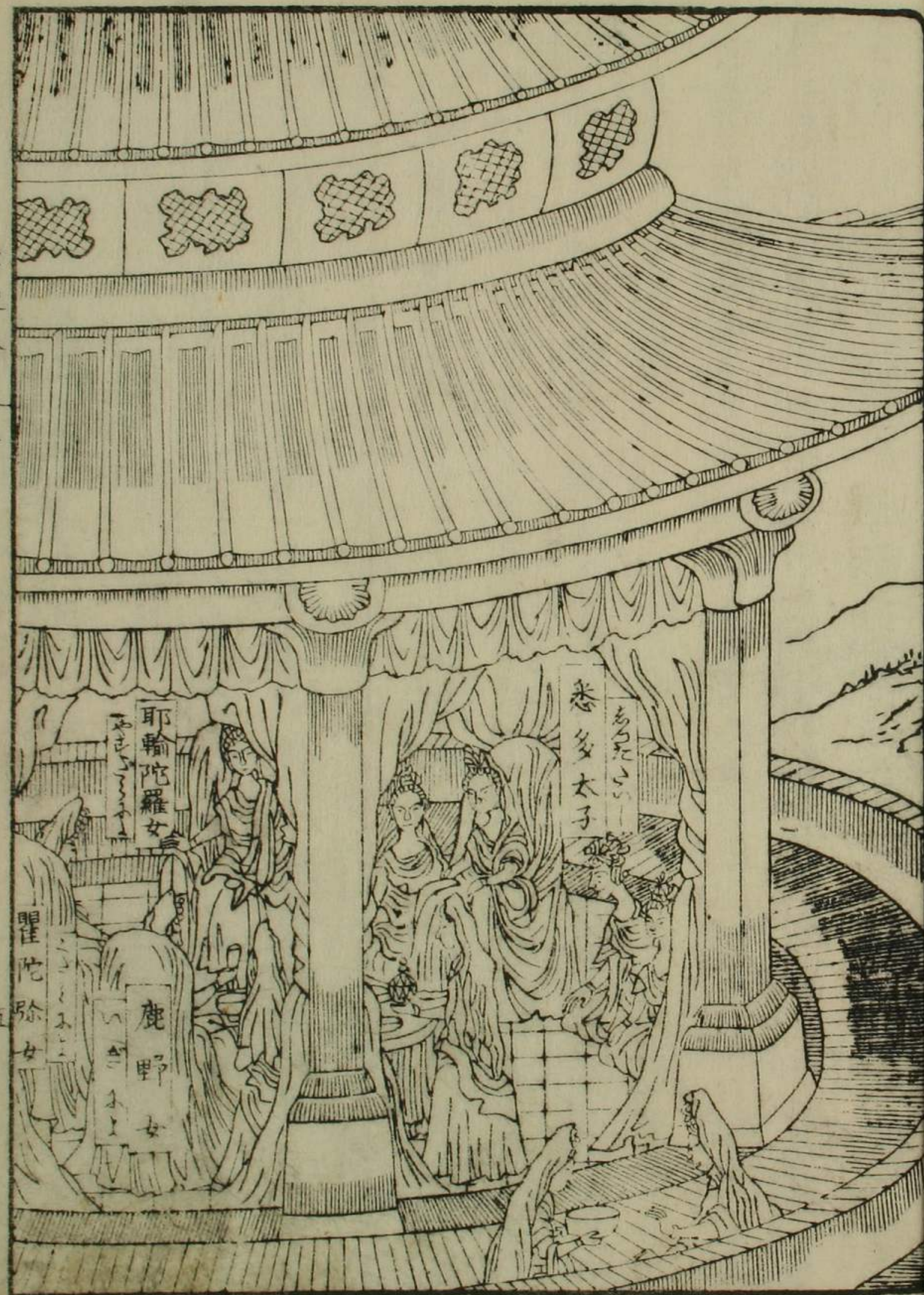
美女あり、執杖、種、の、女、ふ、一、其、名、と、瞿、陀、弥、女、と、
 浄、き、と、蓮、華、の、似、く、美、の、技、藝、小、長、ま、さ、し、バ、諸、国、の、王、こ、が、子、の、う、め、ふ
 聚、ら、ま、く、欲、ま、さ、し、も、俱、陀、弥、女、教、て、肯、つ、を、竊、不、た、子、の、稟、性、美
 の、技、不、長、あ、ひ、つ、と、傳、へ、聞、て、慕、一、く、孤、想、ひ、と、惱、ま、ま、折
 一、も、形、と、知、ら、ね、ど、梵、志、們、が、美、女、の、由、を、聞、知、り、て、浄、版、王、不
 羨、一、ま、う、バ、浄、版、王、膚、感、あ、り、て、新、宮、不、送、へ、あ、ふ、あ、ご、俱、陀、弥、女
 深、く、悦、び、つ、た、子、の、新、宮、と、崇、め、ら、ま、さ、し、て、誅、責、あ、く、冊、き、奉、ま、
 茲、不、新、種、の、一、族、不、婆、羅、門、摩、訶、那、摩、と、い、ふ、大、臣、あ、り、耶、輸、陀
 羅、女、と、喚、做、一、去、一、個、の、女、有、け、る、が、
一書、不、耶、輸、陀、羅、を、迦、夷、衛、国、の、女、と、い、ふ、
 一書、不、耶、輸、陀、羅、を、迦、夷、衛、国、の、女、と、い、ふ、
 容、顔、寔、不、端、正、一、く、も、羞、月、閉、花、の、面、け
 あり、加、以、聰、明、英、智、賢、才、衆、不、起、ま、ま、バ、父、母、深、く、寵、ま、
 不、貴、族、い、更、あ、り、容、貌、才、智、美、事、の、技、術、衆、く、の、首、上、一、つ、

大善權經云
有善善菩薩而
無欲所以示
現妻息防人
懷疑菩薩非
男勤黃門故
納死云

人を推して夫不做さむと。思へば深窓小養ひて。掌珠梅玉と
愛る程不此由膏圃不遠一けまば。這回太子の新宮を求む
拍をりて共不入内まへた旨勅命を蒙りて。父母ハさるあり
耶輸陀羅女も嬉と限アもるく。寔や太子ハ一切の技藝妙小
務まひつ。智能秀あひ一のまろ。淨宮の美麗正二十相八十
持好悉く具足一のひ。聖德備あある。正一は轉輪王様の太子
小。最憐くも聘さる。數あゝぬ身の幸深たハ。息生なり
宿世の善報あむと。親子歡喜勇つ。耶輸陀羅女ら七室の櫻
浴不身を莊嚴。五百の姫女を相隨して。太子の宮へ昇り
けまば。淨殿聖王勅一のひて。弟事轉輪王の例不准。婚姻
の儀式美々くも。龜鶴の縁を結むせぬ。拍太子と耶輸
陀羅女ハ前世の宿因在一ゆして。二世のおん縁流りぬあや

淨實ひ睦まじくも。共不相嫁あふあぞ。斯てハ。幾を如塵も。自然
断あんと。淨殿王ハ。稟まもさるる。情曇除夫人も。おん育と甫て
安らひらまは。鳥將軍鳥陀夷を初。滿朝の月郷雲客。民間
穢一の末まを。皆萬感を唱け。當時亦釋長者の女小
鹿野女と喚做を佳人あり。是とも太子の新宮へ迎絶ひ
くハ。瞿陀羅を第一の妃と。耶輸陀羅を第二の妃と。鹿野
女を第三の妃と。ゆふ。一書小鹿野女の父を摩訶耶摩國王と。ハ非く摩訶耶
西域中不訶耶と。ハ國あり。五夢經太子有。三妃瞿夷。即是第一妃也。第二妃
妃名耶輸第三妃鹿野其父名釋長者とあり。俗説の誤と推て知るべし。流り
らまは。淨殿王ハ。猶も富貴歡樂のおふ。太子の護心を止んと
思召ぬふと。二時殿を造りぬひて。春の宮と做しぬ。則ち
二年の玉殿あて。暖殿。涼殿。中殿。春をと号け。一年の
蘇めを。一。三時。迄所不尽をある。美麗廣大却。昔年造立

首卷不載



たむひし四神の臺不弥塔て清穠殿も稍芳らむ後園廣く
沈わり山あり草木咸珍しく一時を幸て身苑を用き度天引
陽を燃る長閑き春の旦より風誘引時雨空の凄爽き冬の
夕まで景色満ぎ寸地も盡けき観る者咸眼を奪うて現ふ
仙境の樂所とると秘く稟をも以わりけり即運玉殿ち子ハ三
妃と共に移す竹せむひより殿別不花顔柳窓の嫁如二萬
人冊きて舞樂を奏て慰めまらば極樂淨土の秋舞の菩薩も
是より過しと思ふむうりの娛樂とを極めぬ浩きバち子出塵の
淨意在りまもとて竟止りぬべしと思ふ者あまきりけり
今もとも淨波王の具昔相師が勸文且ハ亦阿私陀仙の徳もたき
斯くも出家成りせんとたふ右階とあまをりて三殿も獲の念士と
最夥しく置ぬひ殊不用圖の音四十里の外まで響く鐵門を
造りて城の四門と成ぬひし書夜三千人の衛士ありて出入者を
嚴重く點檢数千の監率城の周匝を回る時よく巡察して敢て
懈怠り垂りけきバち子尚歡樂を捨ぬあて獲心修行ふ出家
做さすく欲しあまとも今ハ厭離しあまべた路一筋も垂りけり
世にち子耶輸陀羅女と僧を結びぬまんとてバチ國の太子と相敵ふ
諸藝を競べあまといりて這親甚不可あまの人嫌を棄つハ必然む
殊に一婦を教夫相いどみ一夫是を得たは自陰の夫親をら
恨す人且禍ハ婦人より生むとて言あるを怨親平等の佛
心にてち子耶一婦の與ふ諸藝の勝劣を争ひぬひ他の怨を
惹ぬらんや若實ふ余もわらば佛も初めハ色慾不盡感せらる
一と誘りわらん歎非如古典不這説わらるも开ハ似而非穢僧の
凡心ふ一時の謬を傳しあて宣く取捨づたの書を慮くほざれば

書無たふ如きと古人もひひけん。常波瞿陀路の過をふ。雪山下の
 諸獸あり。因縁ふよりて諸童子を嫌ひ。女子の妃と成り由わら。
 是等の後と混じりての故。瞿夷の因縁の繁文。以て本編あり
 省たつり。諸亦た子美婦人の。二妃を迎へ。ちんせきを憫ふ志
 ぬるべし。梵書より親傳をまごも。是恐らくい。浮屠氏の私意あり。
 尊たわが佛を穢させと。躬の作り儲。あつらん夫人道の交を。
 知くさる。則ち夫婦親子の愛着をも知るべう。さる。遠ては女子の
 愛をも。親きふ似。さる。自其愛着の深きを知りて。是と捨
 輪回を離。さる。一切衆生を五濁六慾の惑の覺。一雜うら
 べ。遠理を以推したる。二妃とも。不国の快樂を行ひ。不究め
 たり。諸も。耶輸陀羅女子。種を宿して。羅睺羅の生を。ひ。あ
 べ。本邦。圓融院のおん時。大婁の一官女が

有漏路より。無漏路に通。新也。も。羅睺羅が母なり。とを聞け
 と。流。欲。中。公。ま。今。一向。宗。小。肉。食。妻。帯。と。做。さ。る。令。く。遠。理。小。持。る。あ。り
 と。六。言。世。尊。深。道。以。希。の。漸。行。路。を。傍。侶。の。身。小。學。ぶ。の。相。應。一。か。ら
 ね。ど。も。因。祖。親。寧。上。人。の。卓。量。より。淺。薄。の。人。情。を。查。し。あ。ひ
 若。凡。俗。妻。傍。わ。り。て。邪。淫。を。行。す。の。之。あ。ら。其。身。孤。破。戒。の。罪
 を。釀。さ。る。の。も。不。非。む。一。て。宗。門。を。汚。辱。む。べ。し。除。不。墜。戒。破。さん
 より。宰。人。道。を。恕。さ。る。如。ド。と。自。ら。恕。一。て。身。神。佛。之。の。體。を
 弘。め。あ。ひ。一。より。谷。川。の。水。流。を。傳。へ。て。宗。派。流。染。ん。る。り。實。も
 表。の。殊。勝。あ。る。戒。行。い。ま。た。傍。と。見。ゆ。る。も。婁。の。滿。を。貪。を。
 恣。不。行。ふ。の。竟。不。其。罪。取。ま。て。寺。を。汚。一。宗。を。辱。一。む。有。於。邪
 行。あ。ら。ん。り。真。宗。の。變。化。を。寔。不。潔。白。一。とい。え。め

十六

淨居天再三太子を誡を并太子無常を觀りあふ

却後悉多太子ハ二時厥小ニ妃を寵愛シ、あつて娯樂をまゝいめ
ぬと方子右如幻泡影の世と放棄あて思をかり、後轉輪王の
尊た不在て富貴歡樂不施、つりとも涯わす命幾許ぞや、備使
百年の間を經るも、猶流水の去がごとく、倏然と滅ると、電光石火
よりも速るる露の玉の緒引も留りぬ、放棄る妃ハ世の行、行と
厭離の淨を失ぬ、娯樂極めぬとある、淨宮あるまじも
淨をより娯樂と、思ハぬと、鬼もも角も浮世の神と、道も
まく、欲ハあつ、淨動靜不見く、あつ、二妃を南、焉陀夷、其宅の
扈從、嫁女不返るまで、覺束ある思ひつ、橋墨、孫夫人ハ其、俸を
惜々地、小形と告ま、つと、色ハ夫人ハ王不羨、一由ひく、個ハおん
脅を惱ま、あひつ、太子、女色不愛着せき、且、暮、漢書ハ氣を
結、つ、自、然、樂、慾、厭、離、の、念、と、氷、を、あ、る、人、外、遊、さ、つ、其、意、と

願めよと勅、あつ、奉、ア、て、焉、將、軍、ハ、藍、毘、尼、苑、ハ、波、淨、一
あつ、淨、遊、を、催、一、あ、つ、と、方、子、を、擲、擲、ま、つ、と、あ、つ、天、注
至、孝、の、方、子、不、在、せ、つ、淨、父、君、姨、母、夫、人、の、命、不、背、き、奉、ら、つ、と、
敬、で、慈、ひ、あ、つ、バ、大、家、大、ひ、不、收、て、園、を、掃、ひ、殿、を、淨、め、專、光
等、と、促、ま、親、上、近、臣、兜、童、們、方、子、不、伏、奉、一、つ、響、樂、と、東、門
より、あ、つ、つ、行、列、最、も、善、美、不、藍、毘、尼、園、ハ、徐、行、折、一、つ、天、上、の
淨、居、佛、天、と、つ、ハ、方、子、娯、樂、ハ、愛、着、一、つ、奉、願、を、忘、や、せ、ん、と、
疑、ハ、故、不、神、通、り、て、老、弊、一、人、と、化、一、つ、行、旅、を、釋、見、ま、る、賈、濟
男女、の、中、不、雜、て、方、子、の、響、樂、の、辺、つ、と、た、故、意、犯、て、罪、と、一
伸、せ、つ、敬、固、の、衣、士、ハ、驚、て、下、ふ、く、と、制、ま、ま、ど、り、聲、く、ら、あ、つ、と、
良、不、馳、て、步、沙、か、ん、と、あ、つ、ぞ、制、使、ハ、大、く、怒、り、つ、と、遠、亮、奴、を、
あり、と、息、卷、猛、く、突、遣、ま、つ、た、二、三、足、使、使、て、吐、と、呼、つ、作、ま、一

釋迦卷之三十一

終つひ不あきら若わか起あも得えざりけり。た子たごの浩こうる為ため俸ほうを響ひび興きょうの程ほどうり商しやう
 へいへいの奈な何なに残ざんしれ者ものありとも。老らうを勤つとらざるとやああるる急いそむむ方かた右みぎ
 の從したが者もの不あ命めいとて実まこと作しよささるる老人らうじんを扶たす起たさせぬとも力ちから衰おとろへ悵やせ
 悵やせてその身みの五ご體たいを自由じゆう不あも成な難がたぬる形かたち容ようをち子こ熟じゆく商しやうして
 老らうての竟つひ不あ皮ひ膚ふ衰おとろへ血けつ肉にく枯かて駒こまのごご。人ひと生なまし其その日ひより
 年とし月つき一いち霎さつ時じも停とどまらねば初はつりり。六む歳さい 忽たち地まち不あ弱じやく冠かんして
 壯さう士し三さん十じゆ 強きやう 四し十じゆ 艾あ 五ご十じゆ 昔きやく 六む十じゆ 老らう 七しち 老らう 八はち 不あ遠とほふもその年
 月つきの後のち了りやうてゆくと。電でん光くわうの走はしるるくく。噫あや々々る轉くる衰おとろの世よを
 厭いとざるハ愚おろちありと。頻あま不あ感かん愧かひぬひて。清せい遊ゆうの清せい意い失しぬと。ハ
 俄たち不あ心こころ地まち例れいありと。興きやう還えんせと宣のたまふあを。迫せま習じゆく鳥とり陀だ夷い敬けいきして
 鬼おにも角かくも益えき毘ひ尼に園えんまで。波な津つ成なりぬと蘇すむまどと也なり。敢あて
 承うけ引ひぬをねハ已いま度どを得えむ。年とし途とより三さん時じ殿てんへ還かへ津つしまるるぬ。

橋はし曇曇孫そん夫人ふじんへ遠とほ由よしを聞きて。良よく憂うれぬと。信しん陀だ仙せん人じんの言ことつる如ごとく
 不あ厭いとぬとん然しかと安やすき心こころも在ありまささむ。王わう不あ密みつ奏そうぬと。ハ津つ阪はん王わうハ
 亦また更さら不あ宸ちん襟きんを惱なやまぬと。ハ倍ま遊ゆう樂らくの具ぐを指さすと。厭いと離りの念ねんを
 止とめ人ひとと百ひやく般ぱん不あ針はりひぬと。ハ新あたら不あ百ひやく工こうを集あ合ごうして山さん水すいの奇き觀くわん
 描えがける如ごとき萬まん花か園えんを造つくりま當あたると。た子たごの遊ゆう覧らんを促うながすと。ハ
 た子たごハ敢あて然しかぬと。ハぬとねと。父ちち大だい王わうの斯ごとく不あ廢はい慮りよを尽つくさせ
 ぬと。ハ一いちと圓えん輝きまるると。ハ懷なつくと。有あると。ハ願ねん掌ていぬと。ハ鳥とり將しやう軍ぐん
 を得えつと。遠とほ回かいハ嚴げんく令れいして。波な津つの祥しやう見けんを固こ禁きんして。波な津つと
 留とどめる道みち洛らく閑かん不あ塵ちんをも立たてと。翔たぎると。ハ樹じゆ間かん不あ多た集しやくて。諸しよ
 聲こゑ妙めう不あ轉てんずと。波な津つの音おん樂らくを助たすくと。ハ如ごとく。躬かみてた子たごの寶たから
 輦こし不あ迫せま居い女にょ官くわん們ら供くわん奉ほうして。南なん門もんより出でると。ハ心こころ靜せい不あ
 徐あや行ゆ復ふ不あ淨じやう居い天てん亦また病びやう呪じゆと化けして。肉にく枯か骨こつ露ろをささると。ハ款くわん色しき寔じつ不あ



悉多太子



輦を
停めて
太子
老人を
勸り
めよ

烏陀夷

淨居天化身老人

采...

黄瘦つ。瘦體一為体みく。道路不濶く。用さる。巴。警固の武士
狭き紙。王命厳しく。彼を留めく。清道急り。無りり。一。不
浩る者の。用さる。ハ。不測々々と。罵りつ。追退人と。強く。折し。も。
寶華登く。迎つ。死ら。多。バ。警固の武士。們を。制さ。りて。ち。子。清。商
ま。不。既。不。死。向。形。相。あ。る。あ。も。大。く。憐。み。ひ。つ。渠。も。是。原。来
壯。健。あ。ら。ぬ。不。在。ざ。り。けん。と。悲。不。嗜。慾。不。耽。り。淫。事。塵。食。の。度
あ。れ。が。故。不。自。然。立。脱。眼。心。脚。脚。細。い。を。氣。力。衰。へ。疾。病。を。遺。り。て
竟。ふ。の。死。亡。不。至。ち。人。嗚。呼。江。湖。上。の。一。切。衆。生。貴。き。も。機。り。た。り。
咸。遠。大。難。わ。り。あ。ぐ。ら。嗜。慾。不。耽。り。逸。樂。不。荒。も。他。と。幸。命。も。や。と。
深。く。も。怕。憂。ひ。ぬ。ら。バ。萬。花。園。遊。覧。の。沛。意。も。亦。失。ぬ。ら。ど。
曩。も。も。半。途。より。還。り。し。ふ。今。亦。遠。処。より。還。らん。王。女。大。王。の
膺。慮。不。背。く。不。孝。の。罪。を。何。為。は。せん。と。思。召。回。させ。ぬ。ひ。て。

急。不。典。茶。頭。を。強。め。ひ。件。の。病。者。不。茶。を。施。し。馳。て。萬。花。園
不。汲。沛。し。ぬ。ら。バ。嚮。より。這。処。不。俟。奉。り。鳥。將。軍。大。ひ。よ
眼。び。蜜。鞞。を。迎。ま。り。て。秋。舞。吹。彈。り。て。更。あり。種。々。の。饗
應。ふ。ち。子。を。慰。め。奉。ま。る。も。ち。子。の。美。婦。珍。味。も。お。ん。心。樂
し。み。ぬ。を。盡。さ。落。花。不。盡。常。と。觀。し。流。る。花。泉。不。光。陰。の
速。き。と。惜。ま。せ。ぬ。の。も。日。も。稍。西。不。傾。き。ば。れ。バ。寮。馬。不。棄
ま。り。て。萬。花。園。の。西。門。より。還。沛。し。ぬ。ら。バ。茲。不。亦。萍。居。天。々
既。不。老。人。病。者。と。化。し。て。ち。子。の。心。を。試。さ。り。猶。も。又。死。相。を
示。し。て。道。心。を。勵。ま。す。べ。し。と。思。へ。ど。警。衛。の。外。吏。們。が。刑。を。人。を
慮。り。て。這。回。ハ。諸。人。の。眼。不。見。せ。ま。ち。子。と。鳥。陀。夷。不。の。見。せ
ま。や。と。瘦。し。肌。膚。悉。く。土。色。不。復。ト。す。死。骸。と。化。て。道。路。不
依。ど。り。依。奉。の。諸。人。知。ら。ざ。り。け。り。ち。子。ハ。忽。地。這。処。不。沛。する

狂めぬひ、迫く侍し、烏陀夷を召て、烏陀夷よ、那死人と見
む。三寸息新て、神去まば、四大地水火風散て、五臓頭と四肢空き。
歌と成ぬるハ、刺のごとく、世の人上ハ、王侯より、下賤人小至る
まで、遠死を脱る者ハ、あく、百年経難き級の世と或ハ、色と
飲食ふ身の行ひを慎まき、或ハ、慾を恣して、金錢を貪
まども、無常の風を誘引てハ、威は他の有とも、瞬間もあ
を曉得らむ、浩らる浮世と厭つらる、凡ん心を淺ましけましと
命実不理あままば、烏陀夷も實不然ゆと、答まるまと、忌まし
く、淨馬の鑣を曳廻りて、忙がりく、還淨を促しましけせ
けり、遠てち子ハ、老病死の二相を見ぬひしより、猶無常を
觀しぬひ、益費心の淨志止難くぞ在しける、淨飯王ハ、遠由と
聞し召て、逆鱗ましくち子ハ、浩らる度と見せしハ、外吏們の

怠りありとて、其罪を犯させぬふ、威は淨居天の化身あります、
老人病者ハ、竹国の者ら、其の踪跡を不知るりのあく、況んて死歌ハ、供奉
の者さく見認ししとも有らざるあど、外吏們ハ、恐懼其よりと陳し
けまば、恐らくハ、是天魔破旬の障碍ある故と、淨飯王も、白地
惑ひぬひつ、除ち子ハ、富貴と厭ひて、出家の望止まらむハ、甘鹿王
より、纏綿さら、種種の血脈を絶えんと、頻ら不膚慮を惱し
ぬひぬ

十七 比丘無上菩提の道を親并錫杖鐵鉢の奉
今も、復不愈多ち子ハ、淨居天の神通あり、老病死の二苦と見
ぬひ、除ち子ハ、常速速を觀しぬひし、其後ハ、三剎宮に、
錫して、冊き奉ると、陳あらねど、淨双枕も、佛ありけまば、三妃ハ
施ぬぬ地して、色香深くも、浮らむまと、ち子ハ、敢て顧りぬまらませ

菩提の六種
語をて道の
極者稱す
て菩提は
つり天のまま
智慧とまま
多く本編の
多く法の道
の意不用也

只將々として在せしむ。一日鳥將軍を召ぬひ。凡く宮を遷て。稍氣靜を生じ。さきバ野外に出で遊ま彼し。と命を鳥將軍奉りて。由を王に奏聞し。勅命を奉て眺望した。絶景の地は。行宮を修理ひ。遠回の猶亦此素を嚴しく留めし。のこあは。に方五十里の外。小敷万人の禁兵を置いて堅固を令し。準備遺る。うも無く。三新宮も富饒めて。太子の富饒不隨ひぬ。ひ。嫁女近居前。後不侍奉して。北門より出ぬ。統て新不造り。つら。行宮不造りぬ。酒壺を備。妓樂を奏して。太子と慶奉まども。逸樂を好む。なむ。暫時ありて。鳥陀夷の扈從十名。左右と從へ。野面の那方。此方と適遠去ぬ。ひ。が。年。舊。了。圖。涼。樹。の。液。一。下。陰。困。ある。を。太子の樂前。と。鳥陀夷。們。と。顧。ぬ。ひ。汝。達。一。霎。時。遠。処。不。俟。凡。那。処。あ。て。風景を觀はんと。

宣ひつゝ。一。個。斜。く。件。の本。蔭。不。踏。蹴。決。坐。し。て。清。心。不。寂。靜。を。求。め。ぬ。

因。不。い。の。寂。靜。と。六。弟。事。を。棄。て。身。も。心。も。寂。靜。あ。る。と。あり。其。寂。靜。不。心。と。身。の。二。種。わ。り。僧。徒。不。し。て。貪。慾。あ。る。と。身。寂。靜。の。形。あ。る。ま。ども。是。心。寂。靜。あ。る。ま。ども。亦。思。父。不。侍。奉。て。浮。世。の。中。不。交。る。と。も。行。不。所。法。不。合。へ。ば。則。心。寂。靜。あ。る。ま。ども。身。寂。靜。あ。る。ま。ども。身。心。と。も。不。寂。靜。あ。る。ま。ども。佛。と。い。ひ。聖。人。と。い。ひ。亦。此。不。の。神。明。と。い。ひ。身。心。と。も。不。寂。靜。あ。る。ま。ども。是。凡。人。あ。り。今。ま。ば。身。心。靜。不。し。て。忽。然。と。悟。心。の。け。ま。ら。し。と。覺。ゆ。こ。と。ぞ。

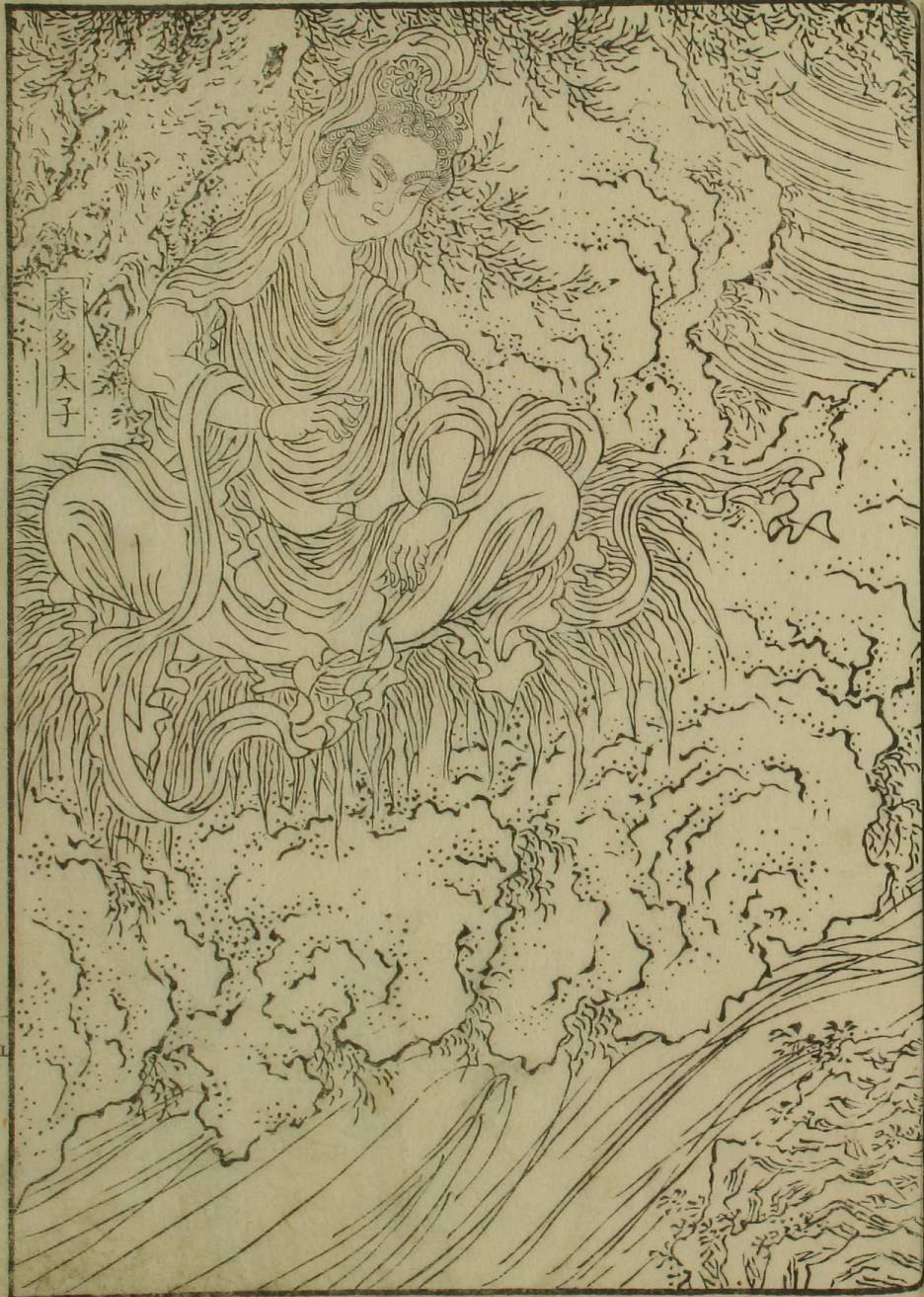
當。下。降。居。天。亦。化。し。僧。と。滅。法。衣。を。着。し。右。手。不。湯。杖。を。策。鳴。し。た。も。不。一。の。漢。譯。を。會。す。太子の。辺。不。找。と。來。ま。ま。ども。鳥。陀。夷。

比丘者僧之
梵語也此名
乞士亦云除
謹

釈迦牟尼
佛用二種
有瓦鉢有鉄
鉢

們あひ見へざりしをた子蚕く見あひて。汝ハ何者ぞと鞫あへた。
淨居天の僧にて。貧道ハ是比丘と。答まつると所あひ。比丘とい
亦何ぞいふ。た子再問あへ。淨居天の僧飛ちと端し。嘆しつ
稟を申す。父子夫婦の愛着を断。輪廻を離きて清淨。今活を
比丘と稱へぬ。本来無一物唯一身。會する湯杖ハ修道の具。不
搖動して。瞋を覚し。且亦他の菩提心を誘引んぬ。不聲を他を
法もとも。开を動りて。再び三不過べり。終若同小人。無とたへ
須く去べたの。備亦遠一。漢译ハ食と受との應器あり。是三根
の人身を資て。急不要する物。不して。這宅一物あり。是無執と可
所あへ。何故不愛着を捨。輪廻を断やと思へ。凡そ人。江湖上の
一切衆生皆。五濁不身を活し。六慾不心を感へ。老病死の迅速
あると。目前不知あぐ。猶迷て生死流轉の苦界。不漂ひて。無上

菩提の極樂あり。と知る。貧道が学ぶ所。新ハ色聲香味觸法。不
露をうりも執着せむ。無漏聖道。不心を遊む。ハ若の海を遠く
脱て。無為の都。不到あり。夫王侯貴人より。一切衆生の世。不存。不
譬。一井。沖。不。墮。一。草。途。の。小。草。不。取。着。て。水。底。へ。陥。る。如。ど。
下と臨め。大蛇。口。と。開。き。落。ち。吞。ん。を。勢。ひ。上。を。望。む。惡。虎。牙。を
厭。む。し。て。上。へ。吐。く。人。勢。を。余。も。上。へ。上。る。不。難。く。下。る。不。路。無。く。割。
カと憑む。小草ハ駭し。黒白の鼠。出。來。て。其。根。を。啗。む。危。た。一。と
斯の。ごと。し。階。を。の。妻子。珍。密。及。び。王。位。の。貴。き。も。特。不。足。く。も。一。回。盡。
常。刀。風。不。遭。り。一。切。身。不。隨。ふ。者。あ。り。噫。危。き。哉。と。嘆。息。し。志。が。
忽。然。と。し。て。全。身。より。金。色。の。光。を。放。ち。て。虛。空。不。勝。り。去。ら。れ。ば。
た。子。ハ。愕。然。と。し。て。あ。ひ。し。て。猶。初。て。惜。り。あ。ひ。原。來。天。人。比。丘。と。化。し。て。
出家。切。德。の。廣。大。ある。を。説。ふ。し。あ。ひ。し。て。あ。ら。ん。凡。誓。て。諸。道。不。勝。



悉多太子

畢加一六九之三

十五



淨居天
化身
の僧
太子
無上菩提
を説く

糸道一六九之三

是上善提の道を學び人天をも化度せんものと。大道心慈
不決して新不真如の月と一も。見ぬもごとく不思ひぬひ歡喜不
慍ぬえ先。烏陀夷を迫く忍ぬひて。凡今日の甚樂めり。先還ん
と宣ふもど。烏陀夷ハ二新宮と烏將軍ハ還濟の由を告知
まをば。猶ひ早不整ひて。大家右子の富聲の前夜を圍ひ繞
は。餘不還濟を返しけり。

十八 耶輸陀羅女三夢を警并太子宮を潛るのみ

當時波梨舍那城の好寔夫人ハ妊娠て在せしが。既ハ王子と産玉
ひしうハ難陀太子と号ぬひて。王のおん歡喜溢るるに。滿朝の
百司百官萬世を唱て祝しまつり。王宮の賑ひのべらも有ねど。獨
ち子ハ比丘の貌を聽ぬひしより。出塵の念を愈決しぬハ心寂
靜く在し。情思ぬぬさる。是上善提ハ引導して。法師と求めぬハ

濃道一難し傳へ聞て。國天門ハ當て。行程一千三百里と隔ち
檀特山の法嶺より。積雲彌構宝山の連岳子。發心報謝賢道
靈山あり。明道秘夏明始驗者の。行ひ清むる處と歎。行程多くハ
山路ありて。峻岨絶壁或ハ亦急流の大河ありて。往來証客も
稀なるは。多くハ人跡絶しと聞ぬ。凡多ありて。翼ハ垂られど。
海上數萬里隔て。あつねハ。鐵了不難き路ありとも。是の踏
ぎる地ありんや。如何りて。宮中を潛出て。彼処不難き。この幸
月の宿意とも。果さんりのと。思せども。津阪王の法令嚴し。く
邦遊しぬふも。數多の官人。前後を圍繞し。まのく。夜ハ四門
の守衛固くて。身孤り。潛び出ぬハ。便宜盡され。清意を惜々地
不若しぬぬひし。今茲ハ。既ハ還濟奉も。十九歳不減くせぬひし。く。

ち子ハ嬪不焦燥ゆひ只徒不年月と送りてせ涯を過まら老
 て悔とも具甲斐わらふとよや城門固くとも迫習嫌女ニ妃們が
 懇睦しつる間わらふ先宮中を潜ぬ人其它ハ機不臨きてこそ并
 せん洲も有あらぬと深念を決めぬとよも斬まてと新宮
 思ひ没けぞ在りる程不頃しも春の朝倦し樹毎不花の焼向と
 色香争ふ二月ハ夜夜も殊不長閑くて曉景色不微吹風も七日
 の半斤月を耶輸陀羅女ハ欄より度面眺不望る折しも不測
 あら哉照りて月忽然と地不臨り是ハと大く狭く却舎ふ
 其身の牙齒倍羅哩と脱て是の邊不落てげり若敬く耶輸陀
 羅女ハ其齒を捨りんと為ぬふ不孰の程不右の臂失て其身不
 有しと並けは餘益致たて己身を顧ぬひて是ハ浅狭ハ甚麼
 して不具の體不減けんらと悲く歎く其聲不愕然とて致さき

覺るは是已房不寸眠し仮寐の夢みて日ハあどさうり覺ても
 專貞安くぬ耶輸陀羅女ハ思ふやう勤不怠り真眠し若済
 の罪より忘りた大凶夢を見しりの故將ち子のめん上不覺束
 あた事りやと思へバ心急るもつも激湯とて身と清ぬ莊嚴
 てち子の在も玉殿へ来て窺ふふち子ハ赫不書と讀ぬひ愛す
 一とも在りまさぬ初て心安堵し猶心ゆとあさふち子の傍
 不進と倚て夢見し客を遣もあく若まのつと膝と拭ぬ
 遠夢ハ若ち子の出家ハ瑞あやと思ひ倚りと稟さふぞち子の
 心不發さぬほどさぬ容不顧りぬひて舒不愉しぬや夢ハ睡
 の想不して晝の妄念邪想の事の睡の中不現さぬも原形
 のわらりのあなね若ぬも竹々わらん五夢六夢と分てども畢竟
 五勝の疲勞あまは無念無疑不夢ハあし阿娘既不此得八月水

と見えたる小わらむや。身重き故に殿旁を。夜分奉と念ふ故に
 公旁を。斯むりの夢と見つるあり。自然も思惟ぬ。月
 猶天小わら。齒も落む。臂も復たさる。あやけや。抑丸小三妃わき
 とも。阿娘小倍を者わら。とも。覚えぬ。是の過去より二世を。結ぶ
 深き縁小有。あまはる。故に種さく。宿しぬ。まごも。年月時日と
 考る小。胎内の子。忍く。尋常小異りて。六年過む。べけり。さ
 らむ。緯の周の後小。そ。自然知る。わらぬ。余は。異常と他怪
 しむ。とも。自疑の心。さ。犯しぬ。ひど。丸。速小。思をぬ。く。と。最
 懇切小。ふ。あ。ん。教休の有。雅さ。耶輸陀羅女。傾む。と
 感涙小。袖を濡し。つ。斯。ま。た。子。の。愛。と。蒙。る。妾。の。侍。美。た。果
 彼。よ。く。夢。の。疑。猶。解。て。歡。喜。の。間。玉。拂。笥。兩。個。々。中。小。も
 明。ぬ。え。ぬ。公。塵。の。所。念。を。量。難。て。と。心。中。小。の。毫。も。由。形。せ。さ

ア。一。程。小。當。日。の。故。あ。く。過。し。つ。聖。了。夜。た。子。の。耶。輸。陀。羅。女
 と。寢。殿。小。入。ぬ。ひ。し。が。且。三。刻。の。左。側。小。何。処。と。も。あ。く。妙。さ。り
 音。あ。て。今。の。正。し。く。出。家。の。時。あり。内。外。の。防。衛。嚴。し。く。と。も。
 方便。を。り。て。た。子。の。あ。る。を。官。吏。們。小。知。く。せ。と。と。願。小。郷。者。て
 聞。ゆ。ま。ど。も。當。下。耶。輸。陀。羅。女。を。南。宮。中。の。女。官。宿。直。の。衣
 士。ま。で。威。懾。睡。し。て。聞。知。る。者。あ。く。た。子。小。の。と。聞。え。ら。ま。を。
 是。時。と。交。わ。り。と。た。子。の。衣。を。捨。遣。り。て。記。小。ぬ。ひ。つ。傍。あ。る。
 耶。輸。陀。羅。女。を。見。ぬ。小。平。生。小。似。や。く。を。脱。し。如。く。熟。睡。を。し
 つ。る。方。侍。の。出。家。學。道。を。權。護。し。ぬ。小。諸。天。の。神。力。あ。り。め。り。と
 竊。小。脱。び。ぬ。ひ。つ。後。の。記。念。と。思。し。け。ん。清。身。の。衣。と。耶。輸。陀。羅
 女。の。厨。つ。る。上。小。被。ぬ。ひ。躡。て。翠。帳。を。ぬ。ひ。て。扇。々。の。廊。と。閑。き
 潛。ひ。ぬ。さ。せ。ぬ。ひ。つ。菘。所。々。小。集。居。し。る。當。番。の。女。官。も。神。所

あり皆のきこころく 眠り臥しと 彼此顧みふ不 孰り美人ありぬ
 ハ 壺けきど 及あくぬ白ひも 附りのあまは 膏血を裹こ
 皮囊臭き 骸を摘も亦 熟と観トありふ 肉中の百毒の完
 も 芭蕉の破しが似く 九孔两眼 鼻 耳 口 陰 肛 門 以上 九つを云 最も汚穢しくて
 愛をべくも有さるば 頻不嘆息し ぬひつ 幸くして 密や
 りふ 官外まや ぬひぬ 浩了事も有べしと 淨版王の祿て
 より 官中の 靡を惹く 用く時ハ 轉る音の 中外地響をうり
 ふ 遠り置せぬひし ころども 當夜不限りて 此の音もせざるぞ
 不測ある 恠て 太子ハ 厥不速り 繼人車匿を 喚ぬバ 車
 匿ハ 寐耳不驚 犯犯て 太子を見奉りて 平身体頭と 疾く
 捷歩を 前ふり 牽りて 来よと 命不車匿ハ 猶 疾き太子の命不
 随ハ 嚴し 勅命を 奈何せん と 身ハ 戰慄き 心ひとり 不

猶縁しが 日比の 嚴令 當時ありと 頻不聲を あり立て 後
 武士們を 喚らるも 是亦 諸天の 神力あり 昏卧て 知る者
 あり 太子ハ 大く 焦燥ぬ 九一切 衆生の あり 煩惱の 結賊
 を 降伏せまく 燃るる 故に 九馬と 牽との みを 流むむと 責
 ぬバ 今ハ 車匿も 己復を得む 捷歩を 曳ぬを 不ぞ 太子ハ 玉
 容和らるふ 鞆子を 奪つ 騰ぬバ 眼み 敵て 見へ ぬども 諸天
 善神 来降して 馬の 前後 不随 従ぬ 波四十里外 不響 響ある
 北門の 穢廉を 開け 此の 音も せき 早官外ハ ぬひし 数子
 の 監率在 あり 神カ 不眠 せし 知る者 更不 ぬり けり 當下
 太子ハ 城外ハ 障り ぬひし 深く 歡喜ぬ 東 匿と 扇
 まし 早め 年月 殆も 列ぬ 金殿 玉榻を うち 於ぬ び
 慈愛の 父母 妻妾を うち 見ぬ 只 顧不 檀 將山の 路を

檀特山ハ北
 天竺律賦州
 同二實ハ
 佛滅百年後
 富國ノ太子
 蘇達摩ガ持
 隠セシ遺跡
 也今ニ其太
 子坐禪ノ石
 室アリ故ニ
 後世悉多太
 子坐禪及成
 道ノ処ト誤
 傳ヘシ也然
 し共其誤ヲ
 久シケレバ
 本編ニモ亦
 誤ニ隨ヒテ
 佛成道ノ入
 口トセルハ
 俗耳ニ近ク
 做カンガ為
 ノミ

望ミテ 馳ルハ 是ヤ 只一切衆生ノ 煩惱を 救ヒトシ 極樂浄土ニ
 引接ントシ 大慈願トシ 一身ノ 苦行を 厭ヒ ぬを 爲ス 淨土
 こそ有難 けき

十九

ち子一夜小檀特山へ 極小并車匿之の 別を 借む
 ち子の 眞實發心を 诸天感應 申し 神通力を 添ぬくべ
 とも 車匿も 我々 夢路を 迷了思ひ みて 夜道 ありとも
 彼方 小迷えむ 雲を 踏 廣を 分つ 早東 雲 ありとも 頂ハ
 幾千里 とも 就 来 小 一人 一座の 高山 小 着 一時 遠処 まで 隨
 流 去 ぬ 諸 天神ハ 威を ぬく ち子ハ 遠
 道を 眺望 ぬ 小 眼 別 ぬ 奇 樹 芬 芳 香 風 異 草 を 吹
 薫 ち 霧 千 仞 の 溪 を 埋 雲 萬丈 の 嶺 を 裏 む 寔 小
 寂 莫 無 人 の 場 あり 傍 小 立 てる 自然 石 あり 天 あり 其 の

面 小 鑿 做 一 小 蝌 蚪 有 跡 の 篆 文 あり とも 苔 藓 解 づ け けり
 無 けり ち子ハ 寄 ぬ 熱 と 滴 ち 小 猶 檀 特 山 と 續
 ぬ 收 び ぬ 小 一 限 あり 閃 曜 と 下 り ぬ 猶 熱
 質 ぬ 小 下 小 退 凡 と 記 一 原 来 遠 処 こそ 音 小 聞 檀 特 山
 小 ぬ 絶 頂 遠 小 瞻 望 ぬ 白 雲 周 り 金 光 耀 靈 香
 靜 小 吹 山 下 風 心 地 清 一 小 遠 峯 小 分 登 けり 必 ず
 賢 道 益 處 を 修 せ ぬ 神 仙 小 遊 遊 せん 歟 遮 莫 退 凡 と 在 けり
 塵 を 離 せ ぬ 凡 人 小 遠 淨 腹 を 限 して 登 けり 禁 ぬ ぬ
 退 けり ぬ 小 原 来 一 身 生 けり 者 一 身 道 を 求 ぬ けり
 何 者 小 伴 侶 づ けり 車 匿 を けり 見 ぬ ぬ 一 個 丸 小 隨 けり
 遠 処 まで 来 けり 始 げ けり 此 けり 丸 小 求 ぬ 道 小 基 上 けり 易
 けり 徒 者 を 懼 ぬ 道 あり 殊 小 碑 面 の 篆 文 小 退 凡 と



在く凡人の遠処より上へ登山を免ぬを乞ふ。神仙の掟
 あらん。余も凡も轉輪王のち子にして身貴しとも。丹人回
 の上のもめて凡解あつぬふ有ねども。凡の帝一心不。無上道と求
 るあまは。着神仙不遇奉りても。免さう由あらん。是を計
 維りて。從者を將て行かせん。汝の捷路を牽て都へ還り。父
 大王不由と奏して。丸須弥山より弥た。大慈と捨て出家し。志
 不孝の罪の大ひあると。多年慈愛の深恩と。姨母夫人不附し
 奉てよと。聞より車匿の警き悲し。浩了深山へ志子を捨て。
 那都へ還らるべた。猶何処までも依奉せやと。泣引ハ捷路も
 君の別と力不けん。膝を屈めて足と低る。頻不涙を流を
 ふ。志子の玉のおん掌りて。顔の極めひ。越る不難き千里の
 嶮岨を能も丸と棄て来し。遠切ハ何をりて。今ハ賞し得さるべた。

九成道して畜生道を脱らるべしと諭し。ひつる。亦車匿不對
 ひあひ。汝別と悲めども。人の威獨生て。獨死ぬる。今世の法あり
 會者へ定め離る。丸が母公。後七日ふして。薨トあひしと
 思ふ。や。一世の母子を離別あり。況て三世の之。從あると。死
 別も。別も異あつ。ば。大く別と悲しむ。と。丸ハ帝老病
 死の。三の畏と悲しむ。故。斯ハ出家あつる。若世の人不
 病患。無く。而老不死して。親子夫婦。之。從別。こと。無
 丸。遺知ハせぬ。と。今。是。三。大。奉。の。若。こと。腹。ん。不。無
 上。道。を。求。る。丸。不。猶。離。ま。し。と。隨。ハ。思。養。不。わ。る。丸。が
 大。願。と。好。る。惡。魔。破。旬。の。所。あ。し。て。是。修。道。の。怨。敵。あり
 遠。理。と。曉。て。丸。が。與。不。父。大。王。姨。母。夫。人。不。丸。が。登。山。の。由。を。奏
 して。丸。曾。と。安。め。奉。り。て。よ。と。今。不。車。匿。ハ。猶。悲。し。し。つ。猶

知りども今更ふ。太子を遠知し於まのうて。獨都へ還りて
己が罪宥を難うるんと思ひ難く村腰の心ひらふ。博く
も。答奉る言葉あく。只黙然と返伏うると太子は。於も。徐
し。あ。浩る。物し。も。本。同。蔭。ふ。咳し。つ。寔。然。と。教。を。あ。る。ら
河者ぞと。其方を乞と見あふ。遠靈山あて。遇んとし。思ひ
つけぬ。獵師あり。あ。あ。あ。弓。箭。を。執。つ。も。其。軀。あ。る。紫。紗。縹。色
の衣と着。う。う。へ。故。こ。そ。有。め。と。思。つ。あ。ん。坐。を。結。し。ぬ。ひ。漆。々
ふ。此。方。へ。歩。行。来。る。件。の。獵。師。ふ。對。ひ。ぬ。ひ。動。靜。を。同。成。ぬ。ひ
け。

二十

天寶と蒙る太子法衣と得あふ。并修驗道の権輿
當下件の獵師へ。汚泥つ。太子不對ひて。恭し。舒る。う。那
樹蔭あて。あ。ん。之。泥。の。あ。ん。赤。心。と。承。り。て。寔。ふ。感。佩。は。り。ぬ。就

て。最。惶。く。も。玉。形。容。と。壺。し。ま。つ。る。ふ。君。の。轉。輪。王。の。あ。ん。血。統。あ。る。
迦毘羅國淨飯王の太子ふ。こ。そ。在。ま。る。う。ぬ。有。う。き。淨。意。ふ
も。金。上。菩。提。の。道。と。し。も。求。め。ぬ。え。ん。と。思。し。召。て。遠。く。遠。靈。山
登りあふ。淨。慧。心。の。あ。ん。健。氣。ふ。い。へ。と。も。お。可。し。た。が。穢。の。者
き。疑。ひ。奉。る。事。の。い。思。く。も。同。奉。ら。ん。什。麼。金。上。正。覺。の。
靈。場。ふ。到。る。こ。と。難。く。き。易。く。き。只。汚。穢。凡。躰。を。辱。ふ
の。と。傳。へ。承。り。ぬ。い。ぬ。然。る。ふ。君。の。戴。ぬ。ふ。玉。冠。は。是。何。ぞ。て
造らせぬ。い。ぬ。や。と。同。奉。る。と。聞。し。召。て。太子。の。體。し。た。賊。の。難。と
思。し。召。ぬ。ひ。つ。是。七。宝。の。冠。あり。と。宣。ふ。を。承。り。て。獵。師。と。亦
難。む。く。夫。七。宝。不。佐。あり。て。珍。う。う。ふ。貴。む。へ。人。界。の。刹。帝
あ。し。て。金。上。道。ふ。へ。上。愧。の。如。し。と。承。り。ぬ。い。ぬ。汝。て。人。の。腹。旁
し。て。造。り。莊。嚴。し。の。淨。櫻。格。ま。で。汚。穢。の。具。ふ。ぬ。を。む。や。と。憚。も

あく然奉まはち子ハ實のと思しぬ心し猶もまご衣
冠莊嚴小身を纏ひハ丸甚と潔りりと宣ひつ清もつ
玉冠を脱ぬひ佩ぬ富劍と璣珞とも引解ぬひつ車匿ふ
示しぬみかろ方僅ぬか言し心得つる事あり
這三品を念歸りて冠と又大王小執ト劍を姨母夫人小執
て丸が出家ハ先妣の菩提の爲と一切衆生を生老病死の
に苦を救はん大願ふしつバ宥させぬつと謝し奉る亦這璣
珞ハ耶輸陀羅女ふとて丸が女ハ念とせを又王姨母夫人
孝行ふはつ奉まはつ傳ふべし努々遺托を違ひるせそと二
品を車匿小逸ふハつバ車匿ハ執と路上ふ泣休て云も
獲む這亦侍を獵師ハ見奉りて在けるが亦ち子ふらち
對ひて若向ひ奉る事こそいハ玉冠富劍おん璣珞ハおん舊

郷一遠也どもおん衣服を見奉る小教萬の蠶を煮殺し去
其糸をめて織成しぬ衣ふハゆえまを然もバ綾綿の麗
したハ人間の遠ふ是や五戒中不持くぬ殺生衣ふこそ
いふぬ彫る不津衣とおん身小纏ひて毎上道一近りぬん
と然しぬハ憚りも事可笑くゆふと再び結了言の葉の
凡あつさまハ悲多ち子ハ心不深く驚きぬハ思をむおん
膝を自己撮と打ちひて知覺しし身軀の凡垢去去
中ぬぬ津わぬ殺生衣を捨得ざりし紙まき海ハ丸
成道の導者ふこそと宣ひし玉の帯を解ぬひおん衣袋
悉く脱ぬんとぬぬひハ竹をう藪ふぬぬぬも無く比
販去ハ裸ふて露霜凌ぐ單ざふ身小着る夜も無く如行ハ
せんと思し去交化し心つたぬひハ獵師不對ひぬハ殺生

衣小心づつて思えども靈場を穢して罪を得べくして汝も
同をきて今更おろりりとの同何とせん別小着つた衣服も無し
見ると小汝が身小若しへ袈裟條色の衣あらん并を丸ふと
まや承然ハ丸グ遠衣服ハ汝小領せらん奈何々と宣つた
獵師ハ笑つ領きんおん望小れたも悲あぐりあぐべしを子の
所衣を揚りても小可着用さぐくも有ねば并ハ懼くも穢ひ
まつらん諸小可が清浄衣を奉るとも是のこおて凶處までハ
登難らんハ碑小聞傳つりふ小遊凡の遠処より絶頂までハ往時
より人迹絶て路もあぐ幽あるも路無経そ是さぐり最滑
らうよれ足踏難る嶮岨のそな樹木蔭蔽して邪魅蓋し嶂
氣充滿して肌膚を傷まバ膝足を防ぐ準備無くしてハ
一歩も找し難しとど就て奉る二品あり廻遠弓箭ふりし柳

遠弓箭の徳さるや禽獸の壽を斬遊獵の具あわさる亦怨
敵も有さるは是を防ぐの備ふわさる只江湖上の一切衆生
貴賤とるく賢愚とるく各々欲さる道不辟して骨と集さる
心の鬼を普く退治降伏倣し志慈弓悲箭あてゆつた遠禱と
弛し柱を矯ておん杖と成りなり獵野としも除ちおん便
あん究竟あらん箭の羽ハ則ち鳥啼あり夜と晝の際同小
して羽の方あると襜の圓たハ陰陽合辟天然小邪鬼と拂
功徳あり是を仰願上小拵あつて嶂氣と避もあをさるハ
仙境まで送りあらん途中も賞東ある先將と言あぐり件ハ
弓の弦を弛し曲と矯て箭を添つ其身小若さる袈裟條
色の衣と脱よと見ると眼羞明く金色の光と放ちて方僅まで
在し獵師の姿ハ消て蹤もあぐ香氣馥郁と薫り是らん



太子
 單
 法臺小
 分入
 あり

車匿

淨居天子の子の與ふ亦獵師と化しぬひ。遠処へ素降して法
衣を授ぬひしあり。當下天子の遠景勢ふ。隨喜の涙と流
しぬひ。諸天丸が護心を憐れぬふと斯のごとく。噫有がご
や尊とやと。淨居天が腹去ぬひし。法衣と両ふ捧ぬひ
天子向ひて數回おし戴たぬひし。躬て綿繡の淨衣と腕
て。見ても好嫌く最終りき。獵師が纏ひし麻衣と。若更
ぬひて濟鬻へ。烏鸞の箭を拵ぬひ。弓の杖を突立ぬひつ
舒不車遷を見くりぬひ。汝も聽り見もあつらん。那まそ天
資神助と蒙る。丸がらつし念とせで。嚮ふ命と志遺物の教品
あつびふ方。僅亦取捨し。衣腋も威會歸りて。鹿野瞿陀路不
分ちあつよ。回をぐるまも父大王。姨母夫人不孝の罪を耐し
奉まこと宣ひて。若見くりもぬむを。慈弓の杖を突立ぬひ。淨

洗不喚。岩を踏分ぬひつ亭々々。危巖を投て登りぬひ。嗚呼
勞し。た哉。昨夜まで。數萬の宮女不冊きて。羅綾不纏とを
ぬひつ。荒き風も吹まぬとぬ。貴きおん身不在せぬ世の諸人
が煩惱の苦しとと救えんと思し。召まきし。浄婆とも竊し
ぬひて。人迹絶し。深山路を心剛し。只獨道師を尋ね不登りぬひ。
石荊藤不刺。是ぬひて。雲より。渡た玉足ぬ。血不涙ぬふ。そ良を
遠道。皇国不興りし。役の行者と組すと。抑行者の其初か。後
小角と喚ぬ。文武帝のおん時不。和州葛本不。生し人あり。
三十二の歳出家し。藤葛とりて衣。松葉と喰ひ。石滂と喫て。
大峯葛嶽を經歷し。難行苦行奉と重ねて。稍慈界の旅を

懼ひ。孔雀明王の咒法を修して。奇異の験あり。能得し鬼神
を驅使して自在あり。今更に其止所處を知り。其後行者の
迹を慕ふて。苦行する者。毎くして。醍醐帝のおん時。小僧の
聖宝僧正。役君の遺法と興して。嶮岨の徑を徑歴し。去り。若
行の者相繼ぎ。今に至りて絶了。と盡く。天台真言の兩宗あり。
春秋兩度の峯入り。春ハ。聖護院淨門室之を行。冬ハ。本山
といふ。秋ハ。二宮院淨門室之を行。當山といふ。余は本山。伏し
當山本山の派あり。兩寺の配下あり。てあり。

三十一

官共四道。小分て。ち子と。遊ふ。并。車匿遺物を。致く。
繼人車匿。目新。獵師。金色の佛鉢。と。賣し。去。奇特。小。致。き。る。憐
然。く。して。隣。り。ぐ。ぐ。ち。子。が。杖。小。携。ぬ。ひ。て。雜。路。を。幸。く。辿。り。ぬ。ん
後。形。を。子。と。共。ぎ。て。空。しく。見。送。り。奉。る。傍。小。嚮。より。膝。を。屈。し。

健勝ハ主の別を。惜して。頻。小。嘯。け。が。車。匿。ハ。仇。と。心。づ。け。那。咄。き。
馬。と。牽。て。獨。歸。國。せ。し。る。べ。た。借。使。怨。敵。障。碍。よ。し。ち。子。の。淨。
怒。を。蒙。り。とも。淨。登。山。を。留。め。て。や。へ。と。偏。高。く。ハ。登。り。ぬ。ぬ。
ち。子。の。おん。後。影。見。し。及。ば。追。止。め。奉。ら。んと。身。と。死。せ。ざ。ら。ぬ。
奈。何。せん。彼。邊。凡。と。彫。做。し。し。る。碑。より。峯。の。方。へ。一。歩。も。行。
くと。能。と。む。強。て。登。り。ま。ま。く。秋。ま。は。る。ば。全。身。麻。痺。て。歩。も。あ。し。
車。匿。ハ。頻。小。聲。り。後。り。て。一。霎。時。候。せ。ぬ。や。と。喚。と。叫。ぶ。ど。巴。が
聲。の。初。返。し。小。響。の。も。忽。然。と。霧。を。覆。ひ。て。ち。子。の。淨。姿。駭。き。
お。ひ。ぬ。遠。光。景。小。致。き。果。を。て。車。匿。ハ。尻。居。小。撞。と。座。し。聲。を。限。り。小。
泣。叫。び。い。が。今。更。小。樹。無。り。ま。は。我。と。心。を。り。轉。し。て。泣。き。も。淨。遺。
物を。馬。の。腹。根。小。結。付。て。口。綱。會。つ。喪。を。ま。ま。ば。至。小。別。る。悲。し。小。
憾。む。や。わ。り。けん。健。勝。ハ。倍。涙。を。流。き。ま。ぞ。獸。類。ま。る。崩。の。ごと。し。と。

車匿の頻に感懐して亦廣々と返却しが果して憂はるる氣を
 勵まし主たるる力あり牽立つるも幾回も返り深山の巔と打
 馳望ても白波の餘波あるの沛命を傳奏し奉りてたも右も
 身の罪の謝し奉らんと尋念を決め慈然として山又山と覺東
 なくも下り行心の中を哀をある案下依題再生迦毘羅城ある
 三時殿あり彼朝天子の在りまなねば瞿陀跡耶輸陀羅鹿野の
 三妃其它數萬の姝女童女宿直の武士們も大ひ小聲き耶と
 烏將軍小告けまば烏將軍の狂氣の如く殿中を馳廻り四門
 の監率身護の武士を威嚇し檢つるも車匿と號呼はるるも
 ど原末夜更なる上りて階びまきまひひあうんと由を降阪王小
 奏聞し情曇跡夫人告まらまば王も夫人も若くも若くも若くも
 泣けり一程も二大月卿雲客退々も聞傳へて森内

とる者給釋として引もきききき迦毘羅城中の強動の宛も
 の涕をく上を下として及りけり憐て有べた時あうまも降阪
 王の方終と膺慮を勵まし王も尚も涙の乾きもやうも
 沛袖小抑ぬひつる三新宮を徵ぬひて天子出家の心あるは隣て
 より知る故に姝女童女至まば内命してち獲し去を釋の
 茲小遣びしは是阿娘們が怠慢あうまやと詔し三新宮の忍入
 てぞ專猶涙小袖を絞りつる回奏奉る詞を知りて就中耶輸
 陀羅女其夜太子小冊きり寢殿小卧さるる罪一身小窮りて
 謝し奉る由も盡し流るる病直の姝女童女扈從青侍の烏陀
 夷とちとぬ懇睡し知る者盡く外吏們も烏將軍父殿しく
 鞠問しつるも此波一般懇睡し小けん曾て夢も知らざる
 のころ四門とも小鎖し終貫本も外さるるは縁地を跨渡りたるも

石垣高く堀廣くして、出あふづも有き、若地を踏らむひし、その
 の翼を借ぬひし、と思ひ難つも、守備の者の過あつて、奉と
 得さきば、只此うへに如何ある、嚴科小行、せぬ人も、形を恨み奉
 らど、異口同音、小陳むる旨と、源成王、府聞し、あひ守備の武士
 まゝ、那のどし、況て、いひ甲斐あは、女童、三新宮の怠慢、ハ罪のゆゑ、よ
 及ぶべう、と、魯西審、ハ四門も、用うて、奈竹、と、潜おけ、人、是將、お家
 学道、を、擁護、まゝ、神野、ゆゑ、思、嫌、まゝ、うゝ、ぬ、奉、あ、く、ん、這、ま、
 損も、措べきや、昨、馬、の、こ、小、有、あ、ま、は、遠、く、ハ、行、べ、う、と、ま、四、方、ハ
 遣、人、を、投、向、よ、と、詔、命、を、下、し、ぬ、バ、諸、臣、奉、り、て、二、十、萬、の、兵、を、
 促、し、四、道、小、配、分、て、ち、子、と、追、抑、奉、ら、ん、と、汗、馬、小、鞭、を、當、り、ぬ、ま、
 め、ん、注、方、を、尋、ま、し、ぬ、と、思、劇、い、ふ、べ、う、も、毎、り、り、り、那、て、東、の、方、と、投
 て、奔、向、し、ぬ、一、隊、の、兵、を、了、ぬ、速、く、も、翌、日、車、匿、と、捷、勝、と、伴、ひ、帰、り

来、し、け、ま、の、階、下、小、引、居、て、馬、將、軍、聲、荒、暴、ふ、や、と、ま、車、匿、
 ち、く、も、嚴、令、と、蔽、如、ち、て、夜、更、小、何、因、り、備、の、君、の、清、彼、と、
 今、更、小、所、容、々、々、一、個、帰、来、り、ぬ、敏、稟、さ、ま、や、と、責、問、を、ま、て、車
 匿、ハ、恐、惶、首、と、擡、再、昨、の、真、夜、中、小、ち、子、小、犯、さ、ま、奉、り、し、り、
 衛、士、監、率、と、嘔、も、起、む、心、あ、り、ぬ、バ、清、寮、馬、を、牽、か、し、ま、し、り、
 志、北、門、自、然、開、き、し、り、り、夢、の、現、の、境、を、分、さ、ぬ、と、投、て、注、方、ハ、知、
 ら、ぬ、も、只、捷、勝、の、旗、を、拿、つ、只、顧、走、り、曉、あ、り、豈、計、ら、ん、や、千、里、外
 の、檀、特、山、の、尾、上、小、来、り、ぬ、釋、の、不、測、ハ、是、の、ま、あ、り、ぬ、其、時、下、宮
 源、と、共、小、清、室、家、の、清、心、を、頼、り、留、奉、り、ぬ、人、間、小、老、病、死、の
 三、大、事、無、く、ハ、幾、心、せ、ぬ、と、宣、小、折、し、も、樹、間、より、現、を、見、し、猶、所、
 神、疾、奔、特、の、内、体、箇、様、々、と、審、小、舒、て、存、亦、稟、せ、ぬ、勢、ひ、那、の
 如、く、あ、り、已、度、を、得、ま、ぬ、た、ち、子、小、別、奉、り、ぬ、檀、特、山、と、下、り、

時ハ時昔の朝ふゆひ一と其黄昏ふ既ふして十餘里と餘未
けん當国迫くありける折しも過人の兵ふ不行會しより知
僅の行程を昨夜より歩行つめて只今帰着仕りぬ再昨の夜
して此還二千六百里を鬼も角も歩行ゆふも帝一食づふは
ねと猶食飲くもゆはは是彼と思ひ合せらるる送るひも下
宮の速く帰りしも威是諸天の威神力以計ひゆふは疾き
率ふゆふと有し容を遺ちく速つ所遺物の數品を捧するて
所遺言を如此々と傳へ奉まは階下羅列しつる群臣顔を見
合して軍兵軍疑せざるも重く馬將軍さ其虚實と量
てぞ黙しけり

八宗起原釋迦實錄卷之三畢

